

# 教 仏 名 聞

第 79 号  
(発行日)  
2017年4月1日  
発行所：真宗大谷派念佛寺  
〒 6638113 西宮市  
甲子園口2丁目7-20  
電話・FAX (0798)  
**63-4488**  
(発行人) 土井紀明  
mail:bachkantata2mubansou@zeus.onet.ne.jp  
http://nenbutsuji.info/

《 聞法会ご案内 》  
○ 〈同朋の会〉  
毎月22日 午後2時始。  
○ 〈念仏座談会〉  
毎月2日と12日 午後3時始  
○ 〈聖典学習会〉  
毎月6日 午後7時始。  
○ 〈真宗入門講座〉  
毎月18日 午後6時30分始。  
\* 8月は2日の念仏座談会と6日の聖典学習会以外は休み。

## ブー タ ンの 国 政 に 学 ぶ

先日ある仏教雑誌

(sangha.vol24.p21)を読んでいる中に、ブータン国のこと

が書かれていました。ブータンはインドの東北に位置する貧しい小さな国ですが、国民の幸福度が高い国として近年世界的に注目されています。仏教を国教にしているので、国の政治に関しても学ぶ点が多い国だと思えます。

この雑誌の記事の中に、この国の現代の歴史の上で、私たちに考えさせられるある出来事が載せられていました。それは次のような文章です。

二〇〇三年にブータンが軍事行動を行った時のことです。当時、ブータンの南部にインドのアッサム地方を独立させたいという独立運動の基地がありました。その過激派によって、ブータン人が誘拐されたり殺されたりということが続いていました。それでもブータンは十年間は耐えていました。またインド政府側からいうとブータンのこの地域はアッサム

ム独立運動ーインド国内のア

ッサム地方の独立運動ーのゲリラの出撃基地になっていたの

で、インド政府はブータン政府に二〇〇三年までにゲリラを

追い出せ、でなければ十万のインド軍をブータン国内に送りこむという最後通牒をつきつけました。

そうなるとブータンは独立国としての地位を失うことになり

ます。そこでブータン国王は一年間かけて、三十カ所あったゲリラ組織の基地に一つ一つ出かけてゲリラを説得しましたが、それでもダメでした。そこでやむなく軍事行動をとることにしたのです。

ありませ

ん。いついかなると

きであっ

ても、殺生は罪です』と説法しました。その次に、今度は国王(ジグメ・シンゲ・ワンチュク王)が

『国家というものはなぜ存在するかといえ

ば、幸福のために存在するのである。それが実現できないのであれば、国家の存在意義はない。我々は現在安全や平和、幸福を維持できない状態になっている。そのため、これからやむなく戦闘行為に入る。一兵たりとも逃さず完全に駆逐せよ』という演説をしたのです。

《 念 佛 寺 永 代 経 法 要 》  
四 月 二 十 二 日 ( 土 )  
午 後 二 時 始  
法 話 渡 邊 愛 子 先 生  
\* 同日 ( 四月二十二日 ) 午前十時・勤行法話  
( 念佛寺住職の法話です )

戦闘行為は、実態としてはほぼ二日で終わりました。それによつて、アッサム側が四八五人、ブータン軍が十一人亡くなり、また、そして多くのアッサム人ゲリラが捕虜になりました。その全員が、ブータン人と同じ物を食べて、同じ所で同じ毛布をかぶって寝て、ブータン人と全く同じ待遇だったそうです。その後、首都のティンプーに戻ったのですが、いわゆる凱旋行進みたいなのは一切行われませんでした。報道もラジオで『本日、ブータン軍は、我々の国土にずっと侵入して、いろいろな犯罪行為を行ってきたアッサムの独立軍との戦闘行為に勝利した。それにより危険はなくなった。しかしながら、その過程で人命が失われた。これ以上残念なことはない』といった短いコメントを出しただけでした。そして国王は宮殿で一ヶ月の間、戦勝祝賀どころか喪に服して全く出てこなかつ

たそうです。

この記事を読んで、結局は  
国益のために他国にまで出兵  
し、戦って極めて多くの犠牲  
者を出し、勝って帰れば祝い、  
自国の兵士が亡くなれば英雄  
のように祭り上げ、他国の犠  
牲者はほとんど顧みなかった  
どこかの国とは大きな違いを  
感じます。

一国の政権にたずさわる者  
たちの世界観や人生観がどの  
ようなものであるかは直接国  
の政策に関わってきます。今  
日、政権担当者の世界観が特  
に問われているように思いま  
す。

今回のブータンでの記事は  
実際この記事の通りだったか  
どうかは分かりませんが、し  
かしブータンのような仏教信  
仰の厚い国ではそれは十分あ  
り得ることだと思えます。そ  
してこのことは日本の将来を  
方向づける日本人一人一人の  
世界観・人生観に深い反省を  
促していると思えます。



(了)

# 自利利他円満して

(和讃問答)

自利利他円満して

帰命方便巧莊嚴

こころもことばもたえた  
れば

不可思議尊を帰命せよ

「讚阿弥陀仏偈和讃」

現代語訳「如来法蔵様は自ら  
のさとり（自利）と衆生の往  
生（利他）とを一体にお誓い  
になり、浄土を建立された。

この自利利他が円満であるお  
徳が浄土の一々の莊嚴に具わ  
って、衆生を浄土に帰せしめ  
るまことに巧みな手だてとな  
っている。それは、実に不思  
議という外はない。このよう  
な浄土の莊嚴を成就された阿  
弥陀如来を帰命したてまつれ」

N「ここで自利利他とは何で  
すか」

D「これは仏説無量寿経に釈  
尊がお説きになった経説に出  
てきます。それによりますと、  
もと法蔵菩薩様が一切衆生を  
佛にしたい、いわば生きとし  
生けるものの真実の幸せを成

就せしめたいと願われ、その

ことよってご自分もこの上  
ない佛（光明無量・寿命無量  
の仏）になりたいと五劫の間  
思惟され、四十八の誓願を起  
こされました。一切衆生を浄  
土に往生せしめて佛にできな  
いようならこの法蔵も仏には  
ならない」と、衆生の往生と  
ご自身が成仏することとを一  
体としてまで誓われたのです。

そしてこの願を成就するため  
に永い間菩薩のご修行をなさ  
れました。それによつて、ご  
自身は仏（アミダ仏）になら  
れ、同時に一切衆生を救うこ  
とのできるお徳を完成され、  
現在私たち一人一人に「汝を  
そのままなりで仏にならしめ  
る、まかせよ」（助ける）と喚  
びづめに喚んで下さっている。  
私たちはそれを聞くだけ、信  
ずるだけで、お助けにあうこ  
とができ仏になることができ  
る、と説かれています。そこ  
で自利とは法蔵菩薩様ご自身  
が永きご修行によつて阿弥陀  
仏になられたこと、利他とは  
それによつて一切衆生を仏に

なさしめたもう力（功德）を

成就されたこと、それを自利  
利他といひます」

N「こうした自利と利他とを  
円かに完成して下さったこと  
を自利利他円満というのです  
ね」

D「ええそうです。ですから  
自利利他円満して、とお聞き  
すれば「ああ如来法蔵様は私  
を助けんがため、佛になさし  
めんがために、永きご苦勞を  
して下さったんだなあ。ご自  
身の自利を完成し、それによ  
つて私が浄土に往生して佛に  
なる因をすべて成就して下さ  
り、それを南無阿弥陀仏とし  
てお与え下さっている。有り  
難いことだ。ようこそようこ  
そ」とお聞きするのです」

N「如来法蔵様が自利利他し  
て下さっているということをし  
て下さっているとお聞かせ  
「この私のため」とお聞かせ  
いただくのですね」

D「ええそうです。聖人も「親  
鸞一人がためなりけり」と、  
弥陀のご本願を自己一人のと  
ころに受け取っておられます。  
衆生のためとか皆のためにと  
いう風に一般化して聞いてま  
すと、ややもすると他人ごと  
になりかねません」

いことですよ」

D「今称えられ耳に聞かされ  
る南無阿弥陀仏は「汝を助け  
る」と喚んで下さっているの  
です。ですからナムアミダ  
ブツと聞こえれば「ああこん  
な私のため」と受け取る。そ  
うしている内に南無阿弥陀仏  
の中にこもっている大悲心が  
いつの間にか私に浸透して下  
さるのではないでしょう」

N「ナムアミダブツと称え聞  
いている中で、如来法蔵様が  
「助からぬ汝を引き受ける」  
と仰せ下さっているところ、南  
無阿弥陀仏の中にこもってい  
る大慈大悲のお心が、私に浸  
透して下さるのですね」

D「ええ、私はそのように感  
じています。歎異抄に  
弥陀の光明にてらされまい  
らするゆえに、一念發起する  
とき、金剛の信心をたまわり  
ぬれば  
とありますように、光明に照  
らされ、照らされて、大悲  
心が廻向されて信心が起る  
のではないでしょう」

N「照らされるとは、具体的  
には、如来法蔵様の自利利他  
の願行が成就して南無阿弥陀  
仏となつておられることをお  
聞きし、お念仏を聞かせ下さ  
ることなのですよ」

D 「ええ、そうです。そして〈汝をまるまる助ける〉と喚んで下さっていると言うことは〈汝の力では自分を助けること、自分の人生を安定させること、幸せを成就すること、は出来ない〉と知らされることになつていゝのです」

N 「いかに救いは他力であるといつても、弥陀の本願を聞かなくては如来の大悲心は私に届かないのですね」

D 「ええ、そう思います。真宗の教えを聞かない人が真宗の信心をいただいたなどという話は聞いたことがありません。如来法蔵様は私たちに働きかけ、念仏させ聞法せしめることを通して大悲心を届けて下さるのであつて、何もなしに突然、阿弥陀仏の大悲にであうという事はまずありませんね」

N 「次に帰命方便巧莊嚴とはどういう意味でしょうか」

D 「まず方便巧莊嚴ということは、普遍的な真実そのものが、如来法蔵様の願行による自利利他のご修行によつて、阿弥陀仏となられ、浄らかなで安楽な浄土が開かれ、教法の言葉となつてお聞かせ下さり、南無阿弥陀仏の名号とま

でなつて私に喚びかけて、〈我が浄土に生まれさせる、助け、たのめ〉と仰せ下さつてゐる全体を、方便とも莊嚴ともいいます。方便とは色もななく形もない真実そのものが形を取つて私たちに現れ近づいて、私たちが真実に預かることのできるようにして下さつた大悲のお手だてのことです」

N 「巧莊嚴とは」

D 「巧みな莊嚴ということ、莊嚴とはかざる、表す、表現するという意味です。真実そのものの功德を巧みに表わされるということですので、方便と同意趣といえましょう」

N 「なぜ方便巧莊嚴されるのですか」

D 「私たちを広大な真実に帰せしめんがためです」

N 「もし巧みな方便がなければ、どうなのでしょう」

D 「お手だてがなければ、直接私たちの方から真実に向かい、私たちの方から求め、私たちの側から真実に目覚めようとしなければなりません。そういう道としてたとえば座禅の修行とか南方仏教のビーパッサナなどがあるのでしよう」

N 「座禅などの修行は真実そのものを直接目覚めようとする方法だといえるのですね」

D 「そういつていいと思いません。ただこうした修行は忍耐がいり、また修行に適した場所とか時を簡びます。電車の中で行うわけにいきません。また病弱ではとてもだめでしょう。それに世間の仕事をしながらというのは極めて難しいですね。ですから座禅とかビーパッサナの行は尊い行ですが、いろんな条件が整わないと行えません。そして修行したからといつて容易に真実に目覚めることはできないといわれています」

N 「ではキリスト教とかイスラム教はどうなのでしょう」

D 「イスラム教のことはよく知りません。伝統的キリスト教では、

神と等しい神の子がイエスとして世に現れ、神の国を説いたが、ユダヤ教支配者に敵視され、ローマ総督のピラトによつて処刑された。死んで葬られたイエスは復活し天(神のみもと)に昇つた。イエスの死は、罪のため滅びに定められた人間を救うための贖罪(罪のあがない)であつた。イエスをキリスト(救済者)と信じ、教会に加わり教会生活に参加する信徒は、罪を許され、愛と正義をもつて歴史を支配する神の民に加えられ、死の

支配からも解放されて、歴史の終わりに現れる神の国に入る。この告知は、新約聖書すなわち〈使徒の証言〉に基づく神の言葉である。(八木誠一「回心」より)

といわれています。今から二千年前に歴史の中に生まれたユダヤ人のイエスは罪のないのに処刑されたが復活したといひ、そういう出来事は歴史的に実際に起こつたことであつて、それが私たちの罪を担いたもうイエスの愛の行為であると、そのように信じる信仰がキリスト教の信仰です」

N 「歴史上に誕生したイエスを神の子であり、滅びずに復活したと信じ、さらにそれが人類の罪を全部担われたと、このように信じるというのは、現代人にとつて抵抗がないとは言えませんね」

D 「ええ、これが二千年前にたつた一度のみ起こつた歴史上の大いなる奇蹟であるといふ信仰です。いわば神様がただ一度だけ歴史の中にイエスという人となつて生きたといふのです。こういう出来事を信じるのは現代人にはなかなか難しいです」

N 「しかし、真宗の法蔵菩薩の物語と似ていますね」

D 「似ていますが法蔵菩薩は歴史上の人物ではありません。釈尊によつて、真実そのものが人格的に表現された相であり、歴史を越えた真実そのものの大悲の働きを象徴した相が法蔵菩薩でありましょう。そういう象徴を〈莊嚴〉といふのです」

N 「法蔵菩薩が願行成就して阿弥陀仏ならぬ、南無阿弥陀仏と喚び続けておられるといふことを信じるのも難しいですね」

D 「ええ。ただそれを正面から信じるとなると難しいですが、とにかくまず南無阿弥陀仏を称え、南無阿弥陀仏を聞く。その南無阿弥陀仏とは(どうしてみようもない汝の死と罪を引き受ける)という端的な仰せ、端的な大悲のみ言葉です。その仰せを仰せのままを受け入れるだけの信心です」

N 「阿弥陀仏の仰せを聞き受けるばかりでいいのですね」

D 「ええそうです。法蔵菩薩の物語を聞いてそれを間違いないと信じなければならぬといふような条件はありません。法蔵菩薩の物語が信じられなくても、南無阿弥陀仏と称えしめられ聞かされる。その南無阿弥陀仏のみ言葉は(助からぬ汝をまるまる引き受け



# ただ一つの信心

る」との大悲の言葉であり、その言葉を聞いて「ああこんな私を」と受け取るばかりで信心は成就するのです。その信心から逆に經典に説かれている法蔵菩薩の物語も「有り難いまこと」と受け入れられてくるといえましょう」

N「そういう如来法蔵様の方便であり巧みな莊嚴（行）によつて帰（帰命）せしめたもう如来法蔵様の働き全体をここでは帰命方便巧莊嚴といわれるのですね。では次の（こころもことばもたえたらば 不可思議尊を帰命せよ）とは」

D「以上のような如来法蔵様の一切衆生を救済したもうお働きは不可思議であつて、思ひはかることも、あるいは人間の言葉（仏陀の説法）で説きつくすことのできない有り難いものであり、そのような不可思議なお助けのお働きである南無阿弥陀仏に「ああ不思議なお助けよ、有り難いことよ」と帰せよとおすすめ下さるのです」（了）



大谷派大阪教区の教化センター発行のパンフレットに載せられた記事をここに転載しました。

○ 「源空が信心も、如来よりたまりたる信心なり。善信房の信心も如来よりたまりたる信心なり。されば、ただひとつなり」（歎異抄より）

＊ ＊ ＊  
このお言葉は、師の法然聖人（源空）の「信心も善信房（親鸞聖人）の信心も如来法蔵様から共にいただいた信心であつて、同一のご信心ですよ、という『歎異抄』のお言葉です。古歌に

わずかなる 庭の小草の  
白露を 求めてやどる  
秋の夜の月

という歌があります。天上の月は草々にひつついている小さなそれぞれの露に月影をおとし、そこに宿ります。

如来法蔵様の大悲は、眞実を求める力も無い私たち一人一人を求め、一人一人に働きかけ続け、ついに信心として

私たちの煩惱の濁心に届いて下さる。届いて下さる信心は如来様の大悲心に外なりませんから、どなたの信心も同一の信心です。有難いことであり、不思議なことです。

如来法蔵様は南無阿弥陀仏とまでなつて私たちに喚びかけ続けて下さる。私たちの心に宿りたい、一つになりたいと働きづめに働いていて下さる。

にもかかわらず、私たちはそれを知らず、それを聞こうともせず、仰がず、むしろ反抗し、逃げ回っているような有り様です。

そんな私たちをあきれもせず、見捨てもせず、どこどこまでも追っかけて下さつて、ナムアマミダブツと現れ「ここにいて、汝を助ける、引き受ける」と仰せ下さっています。

自我で堅く固めた石のような私たちに、大悲の雨を注ぎ続け喚び続けて下さる。「雨だれよく石を穿つ」で、その大悲願力のお陰で、自我の殻で閉塞している真つ暗な私の心に穴が空き、大悲の光が入

つて下さる。

私たちにナムアマミダ仏と喚び続けて下さつていながら、自分の心や自他の行いの善し悪しにこだわつて、注ぎたもう大悲のお心を容易に仰ごうとしません。自己批判も大事ですが、自分の方ばかり見ていただけでは、みそなわしたもう大悲の仏心になかなか気がつきません。

大悲の願心はお念仏の声となつて極めて具体的・現実的にご自身を現して下さつておられます。

そのお念仏を称え、大悲の思召しを聞く、そこに陀仏との出あい成就いたしましたしように。

（了）

## 【遠方法話予定】

- ＊四月十五日から十六日。広島市。龍善寺。午後から午後まで。
  - ＊五月十九日から二十一日。福井別院。午後から午後まで。法話座談。
  - ＊五月二十六日。名古屋市中川区高畑。高畑開法会館。午前十時。法話座談。
  - ＊七月一日。福井別院。午前十時～十二時半。法話座談。
  - ＊七月五日。名古屋市中川区高畑。高畑開法会館。午前十時～十二時半。法話座談。
- （詳しくは念佛寺にお尋ね下さい）

## 【同朋大会】

五月二十日（土）  
午後二時半始

場所—難波別院（地下鉄御堂筋線本町駅下車）

＊大阪教区同朋大会が開催されます。どなたでも参加できます。チケットがいりませんからお申し込み下さい。

## 【法味寸言】

佐々木蓮磨師

- 一。無実の罪をきせられても、言い訳のできぬが念仏者。
- 一。眠るも醒めるも、我が力ではない。
- 一。分かつても分からなくても、死ぬるときには用にたたぬ。
- 一。他力の信とは、間違いないことを間違いないと知らせてもらうのみ。

